

農空間

第74号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】ほ場整備と農地の利用集積で地域農業の活性化!!

農地の利用集積は、「高齢で農業をやめたい」、「規模を縮小したい」など、誰かに農地を貸したいという方の農地を規模拡大したい方に預けて(集積して)耕作してもらうことをいいます。

県では、平成25年3月に策定した「福島県農林水産振興計画(ふくしま農林水産業新生プラン)」において、平成32年度までに県内耕地面積144千haのうち、96千ha以上の農地を集積する計画とし、この内ほ場整備事業実施地区では、70%以上集積する計画です。

農地の利用集積を進めるためには、農地を貸したい方と借りた方のマッチングのほか、どのような作物を作付けし、地域の農業の将来をどのようにしていくかなどの話し合いが重要になっていきます。

ほ場整備事業を実施する地区では、農地の大区画化や用排水路、農道などハード面の整備のほか、計画の策定段階から、事業の完了までの間、事業実施後の営農や地域の担い手を誰にするかなど話し合いを重ねることにより、円滑に利用集積を進めることが出来ます。

会津若松市湊町の「原地区」では、平成18年度から平成28年度まで実施したほ場整備を契機に「株式会社グリーンファーム」を設立し、個別経営から大



豆腐もち定食

規模経営に経営転換することにより、平成28年度は、地区全体の79%(72.1ha)の農地を集積するとともに、水稲と転作物でブロックローテーションを実施し、生産コストの縮減と品質の向上を実現しています。

また、地域の話し合いが増加し、地元自治会と法人が中心となって「はら笑楽校(しょうがっこう)プロジェクト」を立ち上げ、旧原小学校を改修して「カフェはら笑」を開業し、地元雇用を創出するとともに、地元産大豆を使った料理提供や加工品販売を実施するなど、地域の活性化に貢献しています。

このように、ほ場整備の実施と併せて農地の利用集積を進めることにより、経営規模拡大や生産コスト縮減などのほか、地域の活性化にも繋がります。

今後、ほ場整備と農地の利用集積を推進してまいりますので、新たなほ場整備事業の実施については、各農林事務所農村整備部までお問い合わせ下さい。

【農林水産部 農村基盤整備課】

地域に根ざした 水土里ネット

南会津

「先人が開拓した水路で 農業の振興を図る」



南会津町土地改良区

南会津町土地改良区は、平成28年度に設立された受益面積36.9ha、組合員数52名の土地改良区です。

現在は、平成28年度に採択となった「県営経営体育成基盤整備事業田部地区」を実施しているところですが、

昨年11月3日に「水土里を育む普及促進事業」を活用した、「長野大阪堰散策ウォーク」が行われました。

この長野大阪堰は、長野地区の農業用水及び生活用水路として欠かすことのできない施設です。長野地区の先人が、下郷町との町界である番屋川及び加藤谷川から取水し、約10kmの水路(一部洞門)を開拓し、農業に欠かせない水を確保して農業の振興を図ってきたものです。

このイベントは、長野地区の先人が農業用水及び生活用水路として築いた約10kmのうち大型用水路周辺、約6kmを散策していただき、施設の重要性や役割維持管理の必要性、農業農村の持つ多面的な機能について、広く学習してもらうことを目的と

して実施しました。約80名程度の参加者もあって、快晴の中、盛況に行われました。

ゴール後には、長野地区の皆様のご協力により、おいしい豚汁や焼肉を振舞っていただきました。

本年度の田部地区のほ場整備については、16.2haの面工事を実施しております。工事の安全を祈り、また今年度の工事が無事に完了できるよう取り組んでいきます。

【南会津町土地改良区】

途中に施設の見学をします

地区の協力による給水所もあります!

最後に親睦を深めます♪

散策ウォークの説明



福耕支援隊情報

相双農林事務所農村整備部農村整備第一課では、今年度5県から6名の福耕支援隊の応援をいただき、津波被災や原子力災害からの復興を目指すほ場整備や海岸保全施設の復旧工事を行っています。

日夜、工事の設計積算や監督業務、地元調整に鋭意取り組んでいる6名を紹介します。

強い責任感を発揮しながら、爽やかに業務に立ち向かう支援隊は、今後も相双地方の復興復興に必要な不可欠なメンバーです。

鈴木努主査 (秋田県)

津波被災を受けた松川浦近傍農地を、平成27年度からの債務工事の総仕上げを担当しており、地元からの信頼も厚く、今後の補完工事について地元と鋭意調整中です。



配筋検査の様子

農地・施設の災害復旧工事と、パイプライン工事を主とする復興工事を一元的に担当していただいているチームです。本格的な営農再開を見据え、農業振興普及部との連携を本格化させるとともに、その他の多方面に渡る協議調整等を、抜群のチームワークで取り組んでいます。

戸田博基 技師 (滋賀県)

波浪や強風に見舞われての工事中断や、他機関との調整が引き続き多い中、工事完成に向けた綿密な工程管理に余念がありません。



型枠検査の様子

県内からの便り

県中農林事務所

県中地方は、中央に阿武隈川が流れ、その周辺は日本三大疏水の一つである安積疏水で潤う安積平野が広がり、都市的利便性と大自然の恵みが享受できる地域で、「食の絆で地域と共に発展する県中地方の農林業」を振興方向として関係者が一丸となって取り組んでいます。

【ため池等放射性物質対策事業】

本地区は市町村のため池等放射性物質対策の促進を図るため、モデル工事として郡山市の大久保池で実施しています。雑草が繁茂しているなど現場条件に合わせ、ため池底質の除去工法としてポンプしゅん濺のほか、バックホウによる掘削除去などを組み合わせて行います。



郡山市 大久保池の施工前の様子

「食の絆で地域と共に発展する農林業」を目指して!

【復興再生基盤整備事業 農地防

【復興再生基盤整備事業 農地防】 梨池下地区(H26~H31) 本地区は水路からの越水による農地被害の防止を目的として、鏡石町の中心部に位置する梨池から諏訪池を結ぶ排水路の改修工事を行っています(総延長約2.3km)。なお、本地区は環境創造区域のため、排水路の一部に生態系に配慮した多自然型水路を配置するなど、鏡石町が掲げる「憩いやすらぎの場の提供」に資することも目指しています。



生きものに配慮した排水路



毎年素敵な田んぼアートです!

【復興基盤総合整備事業(中山間地域総合整備事業)】

【復興基盤総合整備事業(中山間地域総合整備事業)】 永谷地区(H29~H32) 本地区は田村市船引町に位置し、ほ場整備とため池整備等の工事を実施しております。本地区の用水源はため池と溪流水であり、用水の確保が課題です。ため池の改修により水源を確保するとともに、ほ場整備工事では用水の反復利用や溪流水を利用し、用水の確保に努めております。現在は今年度秋の工事着工に向け、実施設計・境界測量や地元調整を行っています。



ため池天端幅を確認中



【施工前】



【施工後】 効率良い営農が可能

【復興再生基盤整備事業(農地整備事業(通作条件型))】 坂路2期(H26~H31) 本地区は石川町と古殿町に位置し、平成26年度から延長1360m、全幅7.0m、車道幅5.5mの農道の拡幅工事を行っています。また、本地区は地盤が軟弱で、所々に池があり、掘削すると湧水も見受けられるため、水の処理に難航していましたが、工事業者と綿密に協議を行い処理してきました。現在の進捗率は70%程度であり、来年31年度に完了予定です。

新規採用職員の紹介

①南会津農林事務所 農村整備課 佐藤 充 ②本宮市 食産業学部 環境システム学科



④大学では環境システム学科に所属して、コンクリートや食に関する学びました。社会を良くするならば家族がいる地で、何かを成すならば育った地で、骨を埋めるなら生まれた地だと考え、福島県を志望しました。現在は農道整備や河川整備の監督員、「ふくしまの農育」推進事業などを担当しています。入庁して4ヶ月が経ちますが、まだまだ多くの方々に助けられながら、どうにかこうにか食らい付いていきたく思います。一日でも早く仕事を覚え、一人前になれるよう力を尽くしていきます。よろしくお願ひします。

①県中農林事務所 地域農林企画課 小池 涼乃 ②茨城県土浦市 生物資源科学部 生物環境工学科



④私は、茨城県出身ですが、大学で農業土木を学び、また教授や福島県職員として働いている先輩のお話を聞いて、私も福島県職員の一員となって自分の専攻していた分野を活かしたいと思ひ志望しました。所属部署は企画部で、主にグリーン・ツーリズム関係や広報等の業務を担当しています。日々の業務で失敗してしまい、落ち込むこともありましたが、焦らず1つ1つ経験を積んで成長していけるよう頑張っています。

①相双農林事務所 農村整備第二課 渡辺 駿 ②福島市 食料生命環境学科



④はじめまして、相双農林事務所 渡辺です。私が福島県職員を志望した理由は、東日本大震災からの福島復興・復興に携わりたいと思ったからです。現在は、福島県南相馬市鹿島区の真野地区ではほ場整備の担当をしています。地元の人たちの話を聞きながら、地域を形作っていく仕事なので、地元の方からの声を大切にしていきたいと思ひます。震災から7年が経過し、当時の状況から大きな復興を遂げました。しかしながら、福島復興の復旧・復興は未だ道半ばです。これから先の復旧・復興の1日も早い達成に尽力していきたいと思ひます。

①所属・氏名 ②出身地 ③学生時代の専攻 ④志望動機・担当業務・抱負

①相双農林事務所 農村整備第二課 高橋 亮祐 ②福島市 農学部 ③農学部 共生環境課程 ④私は、高校、大学と県外で過ごしましたが、震災をきっかけに故郷への思いが強くなったため、本県を志望しました。現在は南相馬市馬場西地区において農地の基盤整備工事を担当しております。工事の現場は思い描いていた形がどんどん実現されていくため、毎日の変化が楽しく、復興の進捗が日々実感できるためやりがいも感じています。



4月から 農業土木職員の一員です!

編集後記

少し前のお話ですが、三春ダム20周年記念イベント、完成以来20年ぶりのクレストゲートからの放流を見てくださいました。三春ダムは特定多目的ダムとして、田畑も潤っています。今後、秋のライトアップ等が行われる予定です。



『農空間』とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。